

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3071100279
法人名	社会福祉法人 紀三福社会
事業所名	グループホームひだまり
訪問調査日	平成 20 年 8 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

「取り組みの事実」
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
「取り組みを期待したい項目」
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
「取り組みを期待したい内容」
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	海南市下津町方498-25 (電 話 073-493-3310)		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年9月1日

【情報提供票より】(平成20年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	13.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄 骨 造り		
	3 階建ての 2 階 ～ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	○有 (100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	10 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.9 歳	最低 62 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西本内科外科医院 ・ 沼田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

空まで届くみかん畑のパノラマが目の前に広がり、静かな環境の広い敷地にゆったり建つ3階建ての建物の1階にはデイサービスも併設されている。母体の法人グループとの連携で24時間対応の医療体制を完備している。ケア面では、入居者の思いを大切にしながら個別援助に工夫を凝らしており、要介護度が高い入居者に対しても個人個人に寄り添うケアを実践している。食事のメニューは月1回の会席・赤飯の日と多彩で、午前中のお茶会も入居者の楽しみの一つである。ホームではゆったりした時間が流れ、職員の自然な見守りの中で入居者は安心できる生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎回外部評価の結果をスタッフ会議で報告し、水分補給用の湯茶をテーブルに常備する、時計を見やすい位置に変える、窓にカーテンをつける等改善点はできる所から全員で取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員との協働で自己評価に取り組むことが望ましいが、現管理者としては初めての取り組みで、準備期間も少なく、意義・内容共に理解不足の箇所もある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開かれているが、未だ事業所からの報告に留まり、メンバーの意見を運営に反映させるには至っていない。幅広いメンバーの出席もままならず、今後の取り組みについて話し合い、努力もしているが今後の課題は多い。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設けているが利用はほとんどない。面会時に家族等の意見・希望を聞いて「面会時相談ノート」にまとめ、スタッフ会議で検討してサービスの向上に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時に挨拶するくらいで、積極的な関わりは少ない。1階のデイサービスを訪問して顔なじみになったり、近くの老人施設との交流で徐々に知り合いの輪が広がっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より、入居者が地域の中で安心して楽しく生活することを支援する基本理念を作り上げている。当初は長文だったが、簡潔に3項目に分けて覚えやすくし、家族にも理解してもらっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月スタッフ会議の中で理念について勉強会をし、理解・共有を深めている。玄関やエレベーターの中等、目につく所に掲示して意識づけをしながら、職員は理念に添ったケアに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育所・幼稚園・老人施設との定期的な交流、町内の文化祭への出展等、行事への参加は積極的に行われているが、日常生活では周辺住民との繋がりはまだ希薄である。	○	地域住民として参加できる自治会や老人会等にも加入して、地域の中でホームの存在・役割を築いていく事を期待する。管理者の、地域に対し認知症への理解を深める講習会なども開きたいという考えを実現してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者としては初回ながら例年自己評価に取り組んでおり、具体的な改善がなされている。今回は準備期間が短く、ユニットごとの取り組みが異なるにも関わらず自己評価の内容はほぼ同じで、意義の理解や職員との話し合いが不足している。	○	自己評価・外部評価ともに事業所の実態を広報するものなので、各階のユニットでの具体的な取り組みを記入することが求められる。また、評価の活用には全職員での取り組みが望ましく、一層の努力を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に開かれて詳細な議事録がつけられているが、まだ事業所からの報告に留まり、メンバーからの意見はほとんどない。メンバーは地域包括支援センター職員・民生委員・家族だが、出席もままならず、課題も多い。	○	メンバーには入居者や町内会の人も参加することが望ましい。また隔月に開催している機会を無駄にせず、集まりやすい時間帯を再考したり、今回の外部評価を検討する等、会議のテーマを事業所側から提案していくような積極的取り組みを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へは行事案内を届けるくらいで、行き来はほとんどない。市や経営者からは積極的な関わりの助言も受けているが、事業所側はきっかけを模索している。	○	まずは顔つなぎとして、些細な情報でも足を運んで提供し、事業所を知って貰うことで関係づくりをしながら、市との協働でより質の高いサービスをめざすことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、季節ごとに発行されるホーム便りでは、行事・行楽・ホームでの生活の様子を写真入りで伝え、毎月、本人の様子や金銭管理の報告がきちんとされている。また、家族会は事業所主導で開かれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが利用はほとんどない。「面会時相談ノート」に面会時の家族の意見を記録し、日々のサービスに反映させるように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内や建物内の異動はしばしばあるが、職員も以前のユニットに気軽に立ち寄って声をかけ、異動の挨拶など入居者の不安を解消するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、経験の古い人から順に勤務中に受講できるようにしている。研修後は勉強会で報告し、全員で共有できる。また、毎月の勉強会でテーマを決めたり、日々の疑問点は先輩職員のアドバイスで解決したりして、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りや情報収集に努めている。職員も外部研修や相互研修において、他事業所の職員との意見交換や交流で得た知識をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1階のデイサービスを經由して入居するなど、徐々に環境に慣れるよう配慮している。入居間もない入居者には、慣れるまで本人のペースにあわせて対応し、また不穏な状況にある時は家族と連絡を取りながら適切なケアに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者との会話の中で土地の言葉や風習・習慣を教えて貰ったり、梅干しやジャムなど伝統料理を一緒に作ったりと、人生の先輩である入居者の知恵と経験を教わりながら、良い関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を支援する中で気づいたことを「気づきノート」にまとめて本人の思いや希望の把握に努めている。それを職員間で共有し、外泊支援など本人の意向に添えるよう個別援助に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自の見やすい介護計画書を作り、家族の要望も添付している。管理者は、スタッフ会議で職員の意見も取り入れながら個別の綿密な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に見直しを行っている。更に、日々の生活の詳細な記録も参考にして、状態に即した最前のサービスを実施できるように努めている		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人グループとの連携による24時間対応の医療体制の完備、通院・外出の送迎、積極的な外泊支援など、個々の状態に即した様々な支援がなされている。併設のデイサービスへの訪問も自由にできるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医が往診・受診・検診等、担当する入居者毎に適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人と家族とも話し合い希望者は同法人の施設への入居申し込みを出している。看取りも出来る体制が整っており、その時々生活状態を見極めながら最善の対応を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対して常に尊敬の気持ちを持って接するよう言葉使いや態度に配慮している。不適切な言葉かけがあった時は、その場で注意し後のケアに響かないよう留意している。個人記録書等は事務所の棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケ・散歩・楽しみ事・図書館等、個人の希望に添った楽しみ方の支援を常に行っている。外出は全員ではなく、希望者をグループで支援している。テーブルでの座る位置も入居者の希望を聞き入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が買い物・準備・片付けを楽しみながら一緒に行っているが、食事中は職員が交代で別室で休憩を取り、職員と一緒に食事を楽しむ支援とはなっていない。月1回は会席、2回は赤飯と好みを聞きながら多彩なメニューを取り入れている	○	グループホームは入居者と職員が共に生活しながら支援しあう場であり、介護度の高い入居者への食事介助もあるが、一緒に食事を作り同じ物を食べる事が望ましいとの認識を職員が持ち、早急に改善されることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的な個浴槽でゆったり感があり脱衣室も清潔感がある。2日に1回が基本だが、回数・時間等希望に添えるようにしている。また、1階のデイサービスの入浴も楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ・書画・散歩・外出・買い物など、個人の楽しみ事はできるだけ支援している。又、スタッフの得意事の書道・ネイルアート・音楽療法等もとりいれ、入居者が楽しんだり、気晴らしできるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1階のデイサービスへの訪問・カラオケ・近所への散歩等一人ひとりの支援がなされている。また、外出は希望者毎にグループで出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	裏出口からはすぐ屋上に出られ事故防止の為に常に施錠しているが、カーテンで目立たなくしている。エレベーター、階段はスタッフが手薄なときに施錠している。管理者は鍵を開ける時間を増やしているが職員の認識は不十分である。	○	鍵をかけることの弊害を今一度全職員で理解する機会を作り、意識統一を計った上で全員で少しずつ鍵をかけないケアに取り組んで行く事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者を交えての年2回の防災訓練、職員の救命救急講習会が定期的に実施され少しずつ身につけている。今後は近くの警察や地域への働きかけも予定している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員はサービスに関わりながら入居者の様子を細かくメモに取り、後で各ノートに詳細に記入している。食事や水分の摂取も記録を元に個別に支援されている。テーブルに湯茶を常備し自由に飲めるようにして水分の確保を支援している。。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は2階はベージュ系、3階はグリーン系で統一されている。広くゆったりできる厨房は対面式で動きやすく、冷蔵庫は壁に組み込まれすっきりしている。手作りの作品に囲まれた中で入居者はそれぞれの心地よい居場所を見つけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札には○丁目○と書かれ、個人の住まいの趣となっている。居室は広くゆったりして片付いているが、使い慣れた個人の持ち物が少ない。	○	入居者の自宅とのギャップをできるだけ感じないように環境を整えるのも支援の一つで、本人の慣れ親しんだ物品を家族の協力を得て用意することが望ましい。